

2026年度

講義概要

～目の前に人に寄り添ういちばんの存在へ

[介護福祉学科]

目次

求められる介護福祉士像	1
教育課程表	2
アドミッションポリシー・介護福祉学科基本方針	3
領域：人間と社会	
領域の目的	4
人間の尊厳と自立	5
人間関係とコミュニケーション（基礎）	6
人間関係とコミュニケーション（応用マネジメント）	7
社会の理解	8
実践手話技能	10
介護キャリアデザイン	11
介護福祉ワークスキル	12
多文化共生	13
領域：介護	
領域の目的	15
介護の基本Ⅰ	16
介護の基本Ⅱ	18
介護の基本Ⅲ	20
コミュニケーション技術	22
生活支援技術Ⅰ	24
生活支援技術Ⅱ	26
生活支援技術Ⅲ	28
生活支援技術Ⅳ	29
生活支援技術Ⅴ	31
生活支援技術Ⅵ	33
介護過程Ⅰ（基礎）	34
介護過程Ⅱ（実践・応用）	36
介護総合演習Ⅰ（介護実習Ⅰ－1、2）	38
介護総合演習Ⅱ（介護実習Ⅰ－3、Ⅱ）	40
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－1）（基礎①）	42
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－2）（基礎②）	43
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－3）（基礎実践）	44
実習基準Ⅱ（介護実習Ⅱ）（専門実践）	45
領域：こころとからだのしくみ	
領域の目的	46
こころとからだのしくみⅠ（一般基礎）	47
こころとからだのしくみⅡ（形態別基礎①）	49
こころとからだのしくみⅡ（形態別基礎②）	50
発達と老化の理解	51
認知症の理解Ⅰ（基礎）	53
認知症の理解Ⅱ（専門）	54
障害の理解Ⅰ（基礎・専門A）	55
障害の理解Ⅱ（専門B）	56
領域：医療的ケア	
領域の目的	57
医療的ケア（基礎）	58
医療的ケア（演習）	59

求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

+

高い倫理性の保持

教育課程表

教育・社会福祉専門課程

介護福祉学科(昼間部)

区分	授業科目		総授業 時間数	修得 単位数	必修 選択 の別	1年		2年		
	科目	授業形態				通年	週コマ数	通年	週コマ数	
人間 と 社 会	人間の理解	人間の尊厳と自立	講義	30	2	必修	30	1		
		人間関係とコミュニケーション(基礎)	講義	30	2	必修	30	1		
		人間関係とコミュニケーション (応用マネジメント)	講義	30	2	必修			30	1
	社会の理解	社会の理解	講義	60	4	必修	60	2		
	選択科目	実践手話技能	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		介護キャリアデザイン	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		介護福祉ワークスキル	講義・演習	30	2	選択必修	30	1		
		多文化共生	講義・演習	30	2	選択必修	30	1		
	小 計			240	16		210	7	30	1
	介 護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	60	4	必修	60	2	
介護の基本Ⅱ			講義	60	4	必修			60	2
介護の基本Ⅲ			講義・演習	60	4	必修	60	2		
コミュニケーション技術		コミュニケーション技術	講義・演習	60	4	必修	60	2		
生活支援技術		生活支援技術Ⅰ	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		生活支援技術Ⅱ	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		生活支援技術Ⅲ	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		生活支援技術Ⅳ	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		生活支援技術Ⅴ	講義・演習	60	4	必修			60	2
		生活支援技術Ⅵ	講義・演習	30	2	必修			30	1
介護過程		介護過程Ⅰ(基礎)	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		介護過程Ⅱ(実践・応用)	講義・演習	90	6	必修			90	3
介護総合演習		介護総合演習Ⅰ(介護実習Ⅰ-1, 2)	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		介護総合演習Ⅱ(介護実習Ⅰ-3, Ⅱ)	講義・演習	60	4	必修			60	2
介護実習		実習基準Ⅰ(介護実習Ⅰ-1)(基礎①)	実習	91	3	必修	91			
		実習基準Ⅰ(介護実習Ⅰ-2)(基礎②)	実習	104	3	必修	104			
		実習基準Ⅰ(介護実習Ⅰ-3)(基礎実践)	実習	104	3	必修			104	
		実習基準Ⅱ(介護実習Ⅱ)(専門実践)	実習	156	5	必修			156	
小 計			1265	68		705	17	560	10	
こ こ ろ と か ら だ の し く み		こころからのしきみ	こころからのしきみⅠ(一般基礎)	講義	60	4	必修	60	2	
	こころからのしきみⅡ(形態別基礎①)		講義	30	2	必修	30	1		
	こころからのしきみⅡ(形態別基礎②)		講義	30	2	必修			30	1
	発達と老化の理解	発達と老化の理解	講義	60	4	必修			60	2
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ(基礎)	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		認知症の理解Ⅱ(専門)	講義・演習	30	2	必修			30	1
	障害の理解	障害の理解Ⅰ(基礎・専門A)	講義	30	2	必修	30	1		
		障害の理解Ⅱ(専門B)	講義	30	2	必修			30	1
	小 計			300	20		150	5	150	5
	医 療 的 ケ ア	医療的ケア	医療的ケア(基礎)	講義	30	2	必修	30	2	
医療的ケア(演習)			講義・演習	60	4	必修			60	4
小 計			90	6		30	2	60	4	
合 計			1895	110		1095	31	800	20	
介護実習を除いた時間数			1440			900		540		

※選択必修の2科目の内、どちらか1科目を受講すること。

アドミッションポリシー(本校が求める人物像)/学科基本方針

1. アドミッションポリシー(本校が求める人物像)

- (1) 本学園の建学の精神と「well-being」の追求に賛同する。
- (2) 「ありがとう」の言葉を大切に、人と向き合い社会貢献していきたいと考える。
- (3) 医療・福祉への強い関心と資格取得に対する意欲と覚悟を持ちコミュニケーション能力を高めようと努力できる。
- (4) 目の前の人に寄り添う「いちばんの存在」に向かって努力ができる。
- (5) 「地域」のなかで「何ができるか」を「じぶんごと」として考えることができる介護福祉士を目指す。

2. 学科基本方針

1. 目の前の人に寄り添う「いちばん」の存在になる
2. 介護福祉業界の中核として活躍できる介護福祉士になる
3. 地域福祉に貢献できる介護福祉士になる
4. 後継者育成ができる介護福祉士になる

領域：人間と社会（240時間）

領域の目的

1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。
3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。
4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。
5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

科目名	単位数（時間数）
人間の尊厳と自立	2（30）
人間関係とコミュニケーション（基礎）	2（30）
人間関係とコミュニケーション（応用マネジメント）	2（30）
社会の理解	4（60）
実践手話技能	2（30）
介護キャリアデザイン	2（30）
介護福祉ワークスキル	2（30）
多文化共生	2（30）

※介護福祉ワークスキルまたは多文化共生は、選択とする。

授 業 概 要			
人間の尊厳と自立	授業の種類		授業担当者
	講義		馬場 学
授業の回数 15回	単位数(時間数) 2 (30)	配当学年・時期 1年通年	実務経験の有無 無
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重および権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通し、その生活を支える必要性を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を通して、考えることの楽しさを知ることから、多様な価値観を持つことができる柔軟な思考ができるようになる。 2. 人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重および権利擁護が理解できる。 3. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人間の尊厳と人権・福祉理念(人間の尊厳と利用者主体1)		
2	人間の尊厳と人権・福祉理念(人間の尊厳と利用者主体2)		
3	人間の尊厳と人権・福祉理念(人権思想の潮流とその具現化)		
4	人間の尊厳と人権・福祉理念(人権や尊厳に関する日本の諸規定1)		
5	人間の尊厳と人権・福祉理念(人権や尊厳に関する日本の諸規定2)		
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷1		
7	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2		
8	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷3		
9	人権尊重と権利擁護		
10	人間の尊厳と人権・福祉理念(事例演習)		
11	自立の概念・あり方(自立の概念・多様性)		
12	自立の概念(介護を必要とする人々の自立と自立支援)		
13	自立の概念(介護を必要とする人々の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性)		
14	自立の概念・あり方(事例演習)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座1(株)中央法規 備考:感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全てをリモート実施する場合があります。		[単位認定の方法及び基準] 定期試験80%、平常点20%(課題レポート・出席点・態度点、など)、	

授 業 概 要			
人間関係とコミュニケーション(基礎)	授業の種類		実務経験の有無
	講義		無
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2 (30)	1年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士が狭い経験や専門性のみで依拠せず、対人援助に必要な人間関係を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションを理解する。 人間の心理学的理解から人間関係の心理、人間関係形成のプロセスを概観し、コミュニケーションの構成要素、態様をとらえ、コミュニケーション構造化する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1、コミュニケーションの構造を理解し、介護福祉士として活動する場における自己のコミュニケーション課題を見出す。 2、人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人間と人間関係①		
2	人間と人間関係②		
3	人間と人間関係③		
4	人間と人間関係④		
5	演習問題		
6	対人関係におけるコミュニケーション①		
7	対人関係におけるコミュニケーション②		
8	演習問題		
9	対人援助関係とコミュニケーション①		
10	対人援助関係とコミュニケーション②		
11	演習問題		
12	組織におけるコミュニケーション①		
13	組織におけるコミュニケーション②		
14	演習問題		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座 1 (株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験100%	

授 業 概 要			
人間関係とコミュニケーション(応用マネジメント)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	沖田 健太郎	有
授業の回数 15回	単位数(時間数) 2 (30)	配当学年・時期 2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護実践をマネジメントするために人ような組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎が理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	ヒューマンサービスとしての介護サービス		
2	介護現場で求められるチームマネジメント		
3	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み		
4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み		
5	チームでケアを展開するためのマネジメント		
6	チームの力を最大化するためのマネジメント		
7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力		
8	介護福祉職としてのキャリアデザイン1		
9	介護福祉職としてのキャリアデザイン2		
10	介護福祉職としてのキャリアデザイン3		
11	介護福祉職のキャリア支援・開発1		
12	介護福祉職のキャリア支援・開発2		
13	自己研鑽に必要な姿勢		
14	介護サービスを支える組織の構造・機能・役割・管理		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座1(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験90%、出欠席10%	

授 業 概 要			
社会の理解	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。</p> <p>2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>3. 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。</p> <p>4. 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、酒井、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>① 個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりや自 助・互助・共助・公助の展開について理解する</p> <p>② 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解する</p> <p>③ 社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉えることができる</p> <p>④ 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を捉えることができる</p> <p>⑤ 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる</p> <p>⑥ 人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解できる</p>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座2(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験80% ミニテスト、課題レポート、出欠席、授業態度20%	

社会の理解 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	社会と生活のしくみ(生活を幅広くとらえる)
2	社会と生活のしくみ(生活の基本機能)
3	社会と生活のしくみ(ライフスタイルの変化)
4	社会と生活のしくみ(家族の機能と役割)
5	社会と生活のしくみ(社会・組織の機能と役割)
6	社会と生活のしくみ(地域・地域社会)
7	社会と生活のしくみ(地域社会における生活支援)
8	地域共生社会の実現に向けた制度や施策(地域福祉の発展)
9	地域共生社会の実現に向けた制度や施策(地域共生社会)
10	地域共生社会の実現に向けた制度や施策(地域包括ケア)
11	社会保障制度(社会保障の基本的な考え方)
12	社会保障制度(日本の社会保障制度の発達)
13	日社会保障制度(日本の社会保障制度のしくみ ①)
14	社会保障制度(日本の社会保障制度のしくみ ②)
15	社会保障制度(現代社会と社会保障制度)
16	高齢者保健福祉と介護保険制度(高齢者保健福祉の動向)
17	高齢者保健福祉と介護保険制度(高齢者保健福祉に関連する法体系)
18	高齢者保健福祉と介護保険制度(介護保険制度 ①)
19	高齢者保健福祉と介護保険制度(介護保険制度 ②)
20	高齢者保健福祉と介護保険制度(介護保険制度 ③)
21	障害者福祉と障害者保健福祉制度(障害者保健福祉の動向)
22	障害者福祉と障害者保健福祉制度(障害者保健福祉に関連する法体系)
23	障害者福祉と障害者保健福祉制度(障害者総合支援制度 ①)
24	障害者福祉と障害者保健福祉制度(障害者総合支援制度 ②)
25	障害者福祉と障害者保健福祉制度(障害者総合支援制度 ③)
26	介護実践に関連する諸制度(個人の権利を守る制度・施策)
27	介護実践に関連する諸制度(保健医療に関する制度・施策)
28	介護実践に関連する諸制度(貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策)
29	介護実践に関連する諸制度(地域生活を支援する制度・施策)
30	まとめ

授 業 概 要			
実践手話技能	授業の種類		授業担当者
	講義・演習		増谷 千晶
実務経験の有無			有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2 (30)	1年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 初めて手話を学ぶ人たちのために、基本的な手話のなりたちや日常会話を学んでいく。また、単に手話技術だけに目を奪われるのではなく、ろうあ者の暮らしについても学習を深めていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日常会話を中心に展開する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 手話技能検定5級取得を目指す。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	聴覚障害の基礎知識		
2	手話の構成		
3	表現してみよう		
4	模倣してみよう		
5	指文字をおぼえよう		
6	手話の基本表現(感情表現)		
7	手話の基本表現(人物の表現)		
8	手話の基本表現(数・数詞、時の表し方)		
9	手話の基本文型(自己紹介をしてみよう)		
10	手話の基本文型(可能性・許可を表す文型)		
11	手話の基本文型(強調・義務・願望・希望を表す文型)		
12	手話の基本文型(未来・推量・仮定を表す文型)		
13	手話の基本文型(完了を表す文型)		
14	手話の基本文型(言葉や文をつなぐ文型)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●資料適宜配付		[単位認定の方法及び基準] 課題90%、授業参加度10%	

授 業 概 要			
介護キャリアデザイン	授業の種類		授業担当者
	講義		城戸 千景
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	2 (30)	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士としての職業観を育て、自己理解、他者理解を深めながら将来のキャリア形成について主体的に考える力を身につける</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本授業では、介護福祉士として必要な職業倫理、社会的役割、専門職としてのキャリア形成について理解を深める。 自己理解、他者理解を基盤に、介護現場の実習や多様な働き方を学びながら求められるコミュニケーション力、チームワークをグループワークやディスカッションを通して将来のキャリアを設計する力を育成する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職の役割と社会的意義を説明できる 2. 自己理解を深め、自分の強みや弱みの課題を整理できる 3. 介護職の多様な働き方を理解できる。 4. 利用者・家族・職員との関係づくりの大切さを理解できる 5. キャリアvisionを自分の言葉で説明できる 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	キャリアとは何か(介護職の魅力)		
2	介護職の社会的役割と高齢社会と介護の重要性		
3	介護職の仕事理解と働く場所		
4	介護職のキャリアパスと介護福祉士の成長とキャリア		
5	介護職に求められる能力(専門性・責任・倫理)		
6	自己理解① 自分の強み・弱みを知る		
7	自己理解②自分の価値観と仕事観		
8	介護職とチームケアと多職種連携でのコミュニケーションを知る		
9	介護現場のコミュニケーションの大切さの理解		
10	介護現場の円滑な人間関係とチームワークの理解		
11	介護現場のストレスマネジメント		
12	社会人の基礎力と基本マナー		
13	利用者の満足度が高い介護の理解		
14	将来のキャリアプラン作成とキャリア計画の立案		
15	まとめ 将来の自分へのメッセージと目標の整理のプレゼンテーション		
[使用テキスト・参考文献] 人間の理解 中央法規 必要に応じて配布プリント キャリアデザインシート 自己理解シート		[単位認定の方法及び評価基準] 授業への参加状況とグループワーク 30% 最終課題の内容と提出率 10% 定期試験 60%	

授 業 概 要			
介護福祉 ワークスキル	授業の種類		授業担当者
	講義		宮部浩二
授業の回数 15回	単位数(時間数) 2 (30)	配当学年・時期 2年 通年	実務経験の有無 有 必修・選択 選択必須
<p>[授業の目的・ねらい] 高齢者支援に必要なコミュニケーションツール、および外国籍職員理解に必要な教養を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①ことわざや慣用句といった「常識としての日本語」を、自分なりに例文を作りながら学ぶ。 ②高齢者の生きた時代背景を知る。 ③外国籍職員の国や文化を理解する。 ④海外の介護事情を学び、日本との違いを理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 高齢者理解に必要なツールとしての言葉や時代背景を学ぶことで、対象者のニーズをしっかりと把握できる。また外国籍職員について理解し、これからの日本の介護福祉を考えられる人材となる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	PC・タブレット活用術		
2	PC・タブレット活用術		
3	会話の引き出しを増やす(諺・慣用句・語彙力 ①)		
4	会話の引き出しを増やす(諺・慣用句・語彙力 ②)		
5	会話の引き出しを増やす(諺・慣用句・語彙力 ③)		
6	高齢者の時代背景・価値観理解 (1910年代・1920年代・1930年代)		
7	高齢者の時代背景・価値観理解 (1940年代・1950年代・1960年代)		
8	高齢者の時代背景・価値観理解 (1970年代・1980年代・1990年代)		
9	介護で役立つ英単語		
10	外国籍職員の理解に向けて(インドネシア・ミャンマー・ベトナム)		
11	外国籍職員の理解に向けて(フィリピン・ネパール・中国・スリランカ)		
12	外国籍職員の理解に向けて(モンゴル・タイ・カンボジア・インド)		
13	海外の介護事情		
14	振り返り		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料を配布する。		[単位認定の方法及び基準] 定期試験により60 %以上を合格とする。	

授 業 概 要				
多文化共生	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義		加藤あい/情野恵子	無
授業の回数 15回	単位数(時間数) 2 (30)	配当学年・時期 1年通年		必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 N3およびN2の合格を目標とし、試験に必要な語彙、漢字、文法、読解、聴解の知識を体系的に学習する。 講義形式を中心に、出題傾向の解説や問題演習を通して、試験問題に対応できる読解力、聴解力を養う。 また、介護現場で使用される日本語表現や語彙にも触れながら、実践的な日本語力の向上を目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 例文提示、問題演習を組み合わせて進める。解答のポイントを解説するとともに、実際の試験形式に近い問題を用いた演習を行う。必要に応じて小テストや模擬問題を実施し、理解度を確認する。 JLPTの出題形式に慣れ、効率的な解答方法を身につける。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 日本語能力試験N3およびN2レベルの語彙、漢字、文法の知識を習得し、問題を正確に理解できるようになる。 読解問題や聴解問題に対応するための日本語理解力を高め、試験問題の形式に慣れることで適切に解答できる力を身につける。 長文読解や聴解問題に対応できる日本語理解力を養う。 日本語能力試験N3、N2合格レベルに到達する。</p>				
【使用テキスト・参考文献】 スリーエーネットワーク 『ポイント&プラクティスN3文法』 アスク『TRY!日本語能力試験N2文法』 アスク『日本語総まとめ漢字・聴解・読解』 Jリサーチ『日本語能力試験N3直前対策ドリル&模試 文字・語彙・文法』		【単位認定の方法及び基準】 定期試験(80%) 平常点(20%)※各10% ・出席状況 ・授業態度		

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	試験対策 語彙・漢字① 頻出語彙・漢字 問題演習
2	試験対策 基礎文法① 問題演習
3	試験対策 基礎文法② 問題演習
4	試験対策 読解(短文読解)① キーワードの見つけ方
5	試験対策 読解(中文読解)② 段落の要点把握
6	試験対策 語彙・漢字② 頻出語彙・漢字 問題演習
7	試験対策 聴解① 問題の種類と解答のポイント
8	試験対策 読解(長文読解)③ 内容理解のポイント
9	試験対策 応用文法③ 問題演習
10	試験対策 聴解② 会話・説明問題
11	試験対策 総合演習①
12	試験対策 総合演習②
13	試験対策 総合演習③
14	模擬試験
15	模擬試験解説・総まとめ

領域：介護（68単位 1,265時間）

領域の目的

1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。
3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。
6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

科目名	単位数（時間数）
介護の基本Ⅰ	4（60）
介護の基本Ⅱ	4（60）
介護の基本Ⅲ	4（60）
コミュニケーション技術	4（60）
生活支援技術Ⅰ	4（60）
生活支援技術Ⅱ	4（60）
生活支援技術Ⅲ	2（30）
生活支援技術Ⅳ	4（60）
生活支援技術Ⅴ	4（60）
生活支援技術Ⅵ	2（30）
介護過程Ⅰ（基礎）	4（60）
介護過程Ⅱ（実践・応用）	6（90）
介護総合演習Ⅰ（介護実習Ⅰ－1. 2）	4（60）
介護総合演習Ⅱ（介護実習Ⅰ－3. Ⅱ）	4（60）
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－1）（基礎①）	3（91）
実習基準Ⅱ（介護実習Ⅰ－2）（基礎②）	3（104）
実習基準Ⅲ（介護実習Ⅰ－3）（基礎実践）	3（104）
実習基準Ⅳ（介護実習Ⅱ）（専門実践）	5（156）

授 業 概 要			
介護の基本 I	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	授業担当者 山中真智子・佐名木めぐみ	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 介護の対象である「人間」と「生活」について、その本質を見つめ、考察できるようになることで、介護福祉士の役割と機能を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。</p> <p>介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総体的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>① 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する ② 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する ③ 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成するための内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。 ・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。 ・介護福祉士としての心構えを身につける。 ・介護福祉の基本原則を理解し日常の生活支援に具体的に応用することができる。 			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座3、4(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 第1章～第3章 70% 第4章 30% 平常点(小テスト、出席率)10% ただし、定期試験配点のうち60%を満たさない場合は定期試験不合格とする	

介護の基本 I		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
回	内容・備考	
1	介護福祉の基本となる理念(介護福祉とは／介護の成り立ち①)	
2	介護福祉の基本となる理念(介護福祉とは／介護の成り立ち②)	
3	介護福祉の基本となる理念(介護福祉とは／介護の成り立ち③)演習	
4	介護の概念の変遷1970年代	
5	介護の概念の変遷1980年代	
6	介護の概念の変遷1990年代	
7	介護の概念の変遷2000年代	
8	介護福祉の基本理念	
9	介護福祉士の役割と機能(活躍の場と機能／社会福祉士法及び介護福祉士法・介護福祉士を支える団体)1	
10	介護福祉士の役割と機能(活躍の場と機能／社会福祉士法及び介護福祉士法・介護福祉士を支える団体)2	
11	介護福祉士の役割と機能(活躍の場と機能／地域包括ケアシステム・介護予防・医療的ケア)	
12	介護福祉士の役割と機能(人生の最終段階の支援)	
13	介護福祉士の役割と機能(災害時の支援)	
14	介護福祉士の倫理(介護実践における倫理・介護福祉士の対応)	
15	介護福祉士の倫理(日本介護福祉士会の倫理綱領)	
16	介護福祉士の倫理(演習)	
17	自立に向けた介護(自立支援の考え方・介護福祉における自立支援の意義)	
18	自立に向けた介護(ICFの考え方①)	
19	自立に向けた介護(自立支援とリハビリテーション／リハビリテーションとは)	
20	自立に向けた介護(リハビリテーションの実際)	
21	自立に向けた介護(リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価)	
22	自立に向けた介護(リハビリテーションにおける自立・介護福祉士の役割)	
23	自立に向けた介護(自立支援と介護予防／介護予防の概要)	
24	自立に向けた介護(介護予防の種類と特徴・高齢者の身体特性と介護予防)	
25	自立に向けた介護(介護予防の実際)	
26	自立に向けた介護(自立支援と介護予防・介護福祉士の役割)	
27	自立に向けた介護(演習)	
28	地域連携(地域包括ケアシステム①)	
29	地域連携(地域包括ケアシステム②)	
30	まとめ	

授 業 概 要			
介護の基本Ⅱ	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	単位数(時間数)	担当学年・時期	必修・選択
30回	4 (60)	2年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 介護における日常生活支援の基本を理解し、介護実践の基本原則と方法を習得し、利用者主体の生活支援の能力を培う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。</p> <p>介護福祉の基盤となる生活の支援において、「生きがいのある生活」とは何かを理解し、その生活の経営と管理について考え、対象並びに介護者の安全に配慮した介護実践の方法を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する内容とする。 ②介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する内容とする。 ③介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。 ・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。 ・介護福祉士としての心構えを身につける。 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
●最新・介護福祉士養成講座3、4(株)中央法規		定期試験90%、課題レポート10%で評価。	

介護の基本Ⅱ		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
回	内容・備考	
1	介護福祉を必要とする人の理解(私たちの生活の理解)	
2	介護福祉を必要とする人の理解(介護を必要とする人たちの暮らし)	
3	介護福祉を必要とする人の理解(その人らしさと生活ニーズの理解)	
4	介護福祉を必要とする人の理解(生活のしずらさの理解と支援)	
5	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ1	
6	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ2	
7	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ3	
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ4	
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ5	
10	協働する多職種の機能と役割(多職種連携・協働の必要性)	
11	協働する多職種の機能と役割(多職種連携・協働に求められる基本的な能力)	
12	協働する多職種の機能と役割(多職種連携・協働に求められる基本的な能力)	
13	協働する多職種の機能と役割(保健・医療・福祉職の役割と機能)	
14	協働する多職種の機能と役割(保健・医療・福祉職の役割と機能)	
15	協働する多職種の機能と役割(多職種連携・協働の実際)	
16	介護における安全の確保とリスクマネジメント(介護における安全の確保)	
17	介護における安全の確保とリスクマネジメント(介護における安全の確保)	
18	介護における安全の確保とリスクマネジメント(リスクマネジメントとは何か)	
19	介護における安全の確保とリスクマネジメント(感染症対策)	
20	介護における安全の確保とリスクマネジメント(感染症対策)	
21	介護従事者の安全(健康管理の意義と目的)	
22	介護従事者の安全(こころの健康管理)	
23	介護従事者の安全(身体の健康管理)	
24	介護従事者の安全(労働環境の整備)	
25	介護従事者の安全(労働環境の整備)	
26	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス①	
27	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス②	
28	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス③	
29	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス④	
30	まとめ	

授 業 概 要			
介護の基本Ⅲ	授業の種類		実務経験の有無
	講義・演習		有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	4 (60)	1年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ・介護の対象である「人間」と「生活」について、その本質を見つめ、考察できるようになることで、介護福祉士の役割と機能を理解する。 ・介護福祉士が対象者の自立支援のためにどのような行動をとることが望ましいのか、また対象者のために提供すべき活動は何かということを考える契機とし、介護福祉の専門職としての能力や態度について学ぶ。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。 ・介護福祉の基本の理念を理解したうえで、倫理に基づき、自らの役割を率先して担える人材になれる。また、人が生きる上での「楽しみ」をいかにして提供していけるかということが多面的に理解する。 <p>介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総合的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 ② 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。 ③ 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成するための内容とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。 ・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。 ・介護福祉士としての心構えを身につける。 ・介護福祉の基本原則を理解し日常の生活支援に具体的に応用することができる。 ・対象者の自立支援に必要な視点をもつことができる。 ・介護福祉士が多職種と連携し、活動が提供できるきっかけをつかむ。 ・対象者の生活がより豊かになる為のレクリエーションの計画、実施ができる。 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>●最新・介護福祉士養成講座3、4(株)中央法規●レクリエーション第3版 活動と参加を促すレクリエーション 三輪書店</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験 50% 課題レポート 50%</p>	

介護の基本Ⅲ		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
回	内容・備考	
1	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーションの基本的理解)	
2	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーションの体験・なじみの遊び)	
3	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーションの計画書の書き方)	
4	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション計画書の作成)	
5	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション実施グループ作成)	
6	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション内容提案)	
7	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション物品作成①)	
8	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション物品作成②)	
9	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション運営・実施体験①)	
10	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション運営・実施体験②)	
11	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション運営・実施体験③)	
12	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション運営・実施体験④)	
13	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション運営・実施体験⑤)	
14	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション運営・実施体験⑥)	
15	自立に向けた介護／生活意欲と活動(レクリエーション統括)	
16	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(リハビリテーションと介護予防①)	
17	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(リハビリテーションと介護予防②)	
18	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(生活を通したリハビリテーション①)	
19	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(生活を通したリハビリテーション②)	
20	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(生活を通したリハビリテーション③)	
21	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(介護保険におけるリハビリテーション)	
22	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(脳卒中におけるリハビリテーション)	
23	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(整形外科のリハビリテーション)	
24	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(内科疾患におけるリハビリテーション)	
25	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(脊髄損傷におけるリハビリテーション)	
26	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(特定疾患のリハビリテーション)	
27	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(発達障害に対するリハビリテーション)	
28	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(ADLを支援する機器)	
29	自立に向けた介護／自立支援と生活支援(訪問リハビリテーション)	
30	まとめ	

授 業 概 要			
コミュニケーション 技術	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	野浪 実穂	有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを实践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1. 人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのより良い関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。 2. 介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本的知識・技術を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。 ②家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。 ③障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。 ④情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する内容とする。</p>			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座5(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験100%	

コミュニケーション技術		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
回	内容・備考	
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション(介護におけるコミュニケーションの意義・目的)	
2	介護を必要とする人とのコミュニケーション(コミュニケーションの基本)	
3	介護を必要とする人とのコミュニケーション(介護技術とコミュニケーション)	
4	介護を必要とする人とのコミュニケーション(言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本)	
5	介護を必要とする人とのコミュニケーション(利用者の話を聴く技法・感情表現を察する技法)	
6	介護を必要とする人とのコミュニケーション(利用者の納得と同意を得る技法)	
7	介護を必要とする人とのコミュニケーション(質問の技法・相談・援助・指導の技法)	
8	介護を必要とする人とのコミュニケーション(利用者の意欲を引き出す技法)	
9	介護を必要とする人とのコミュニケーション(複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法)	
10	介護における家族とのコミュニケーション(利用者・家族との信頼関係の形成)	
11	介護における家族とのコミュニケーション(利用者と家族の意向を調整する技法)	
12	障害の特性に応じたコミュニケーション(コミュニケーション障害とその原因)	
13	障害の特性に応じたコミュニケーション(利用者の特性に応じたコミュニケーション)	
14	障害の特性に応じたコミュニケーション(高次脳機能障害のある人)	
15	障害の特性に応じたコミュニケーション(失語症・構音障害のある人)	
16	障害の特性に応じたコミュニケーション(認知症・若年認知症のある人)	
17	障害の特性に応じたコミュニケーション(視覚・聴覚に障害がある人)	
18	障害の特性に応じたコミュニケーション(知的障害・精神障害のある人)	
19	介護におけるチームワークのコミュニケーション(チームのコミュニケーションとは・意義・目的)	
20	介護におけるチームワークのコミュニケーション(チームコミュニケーションの方法)	
21	介護におけるチームワークのコミュニケーション(報告・連絡・相談の意義と目的、留意点)	
22	介護におけるチームワークのコミュニケーション(記録の意義と目的・記録の種類)	
23	介護におけるチームワークのコミュニケーション(記録の書き方の留意点)	
24	介護におけるチームワークのコミュニケーション(記録の活用)	
25	介護におけるチームワークのコミュニケーション(会議・議事進行・説明の技術①)	
26	介護におけるチームワークのコミュニケーション(会議・議事進行・説明の技術②)	
27	介護におけるチームワークのコミュニケーション(事例検討に関する技術①)	
28	介護におけるチームワークのコミュニケーション(事例検討に関する技術①)	
29	介護におけるチームワークのコミュニケーション(情報の保護と管理①)	
30	介護におけるチームワークのコミュニケーション(情報の保護と管理②)	

授 業 概 要			
生活支援技術 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	藤本 明子・介護福祉学科教員	有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠について学習し人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生活の意味と意義を修得する。 ②健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できる。 ③ボディメカニクスの原理を十分に理解し、それぞれの利用者の身体の状況に応じた移動援助方法が理解できる。 ④身支度の意義、その人らしい自己表現から社会性の回復への援助方法が理解できる。 ⑤嚥下のメカニズムを知り、より安全に楽しく食事ができるように利用者に適した食事援助の方法について理解できる。 ⑥身体各部の清潔が身体や精神に及ぼす影響を知り、利用者の状態に合わせた清潔援助について理解できる。 ⑦排泄のメカニズムを理解し、排泄障害のある利用者の方の状況に合わせた排泄介助方法が理解できる。 ⑧終末期における尊厳を持った人としてかかわる介護の知識・技術が理解できる。 ⑩生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識が理解できる。 			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術 I 第3版、生活支援技術Ⅱ7、生活支援技術Ⅲ8 (株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% レポート課題 20%	

生活支援技術 I		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
回	内容・備考	
1	生活支援の理解 1	
2	生活支援の理解 2	
3	休息・睡眠の介護 1	
4	休息・睡眠の介護 2	
5	休息・睡眠の介護 3	
6	自立に向けた移動の介護 1	
7	自立に向けた移動の介護 2	
8	自立に向けた移動の介護 3	
9	自立に向けた身じたくの介護 1	
10	自立に向けた身じたくの介護 2	
11	自立に向けた身じたくの介護 3	
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 1	
13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 2	
14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 3	
15	自立に向けた排泄の介護 1	
16	自立に向けた排泄の介護 2	
17	自立に向けた排泄の介護 3	
18	自立に向けた食事の介護 1	
19	自立に向けた食事の介護 2	
20	自立に向けた食事の介護 3	
21	人生の最終段階における介護 1	
22	人生の最終段階における介護 2	
23	人生の最終段階における介護 3	
24	自立に向けた居住環境の整備	
25	福祉用具の意義と活用	
26	応急手当の知識と技術	
27	災害時における生活支援	
28	災害時における生活支援	
29	復習とまとめ	
30	復習とまとめ	

授 業 概 要			
生活支援技術Ⅱ	授業の種類		実務経験の有無
	講義・演習		伊藤 佳啓・介護福祉学科教員
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	4 (60)	1年通年	必修 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 ・睡眠支援に必要なアセスメント視点を理解し、身体状況や価値観に合った具体的な援助方法を身に付けることができる ・身じたくの意義を理解し、身体状況や価値観に合った生活習慣や身じたくの具体的な援助方法を身に付けることができる ・入浴・清潔保持の意義やアセスメント視点を理解し、身体状況に適した介護の清潔援助方法を選択することができ、安全でプライバシーの保護に配慮した清潔の介助ができる。 ・自立に向けた排泄の介護に必要なアセスメントの視点を理解し、身体状況に合わせた介助方法を選択し、尊厳に配慮した介助ができる。 ・自立に向けた移動・移乗の介護に必要なアセスメントの視点を理解し、疾患・障害など、身体状況に合わせた介助方法を選択し、尊厳に配慮した介助ができる。 ・終末期介護における必要なアセスメントの視点を理解し、尊厳を持った人としてかかわる介護の知識・技術を身につける事ができる。 			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6、7、8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 各項目終了時の技術試験 50% すべての項目終了時の総合技術試験 50%	

生活支援技術Ⅱ 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	休息・睡眠の基本となる知識と技術 1
2	休息・睡眠の基本となる知識と技術 2
3	休息・睡眠の基本となる知識と技術 3
4	休息・睡眠の基本となる知識と技術 4
5	移動の基本となる知識と技術 1
6	移動の基本となる知識と技術 1
7	移動の基本となる知識と技術 2
8	移動の基本となる知識と技術 2
9	移動の基本となる知識と技術 3
10	移動の基本となる知識と技術 3
11	移動の基本となる知識と技術 4
12	移動の基本となる知識と技術 4
13	身じたくの基本となる知識と技術 1
14	身じたくの基本となる知識と技術 1
15	身じたくの基本となる知識と技術 2
16	身じたくの基本となる知識と技術 2
17	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 1
18	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 2
19	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 3
20	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 4
21	排泄の基本となる知識と技術 1
22	排泄の基本となる知識と技術 2
23	排泄の基本となる知識と技術 3
24	排泄の基本となる知識と技術 4
25	食事の基本となる知識と技術 1
26	食事の基本となる知識と技術 2
27	食事の基本となる知識と技術 3
28	食事の基本となる知識と技術 4
29	復習とまとめ
30	復習とまとめ

授 業 概 要			
生活支援技術Ⅲ	授業の種類		授業担当者
		講義	
	実務経験の有無	無	
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 高年齢者の生活の継続性を支援する観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学習とする。家事技術が自分自身の生活に直結していることを理解し、対象者の日常生活にかかせない家事援助の知識と技術を修得することを目標としている。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義を中心として、演習に結び付く基礎学習を生活全般にわたり学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 生活の意味と意義を理解し、生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識・技術を修得できるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・家庭生活の理解(高齢社会の現状)		
2	自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと		
3	高齢者における食事の意味と目的①(高齢者における食事のしくみ)		
4	高齢者における食事の意味と目的②(高齢者における食事の一連の流れ)		
5	高齢者における食事の意味と目的③(食事に関してのその手順と留意点)		
6	高齢者における食事の意味と目的④(食べるという行動の老化現象と配慮)		
7	高齢者における食事の意味と目的③(食事に関連した心身の機能低下が及ぼす影響)		
8	高齢者における食事の意味と目的④(食事に関連した変化への気づきと対応)		
9	高齢者における食事の意味と目的⑤(食品の保存と食中毒について)		
10	ユニバーサルデザインとその考え方について・家事の介助の技法①(掃除・ごみ捨て)		
11	家事の介助の技法②(買い物・金銭管理)		
12	家事の介助の技法③(悪質商法の種類と対策)		
13	家事の介助の技法④(高齢者における生活時間管理)		
14	多職種との連携(在宅・施設の場合)		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●生活学Navi資料+成分表2026(株)実教出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] ●定期試験 80% ●小テスト 20%</p>	

授 業 概 要			
生活支援技術IV	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	後藤 珠梨・介護福祉学科教員	無
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しや見守りも含めた支援技術を用いて日常生活を安全に過ごせるよう援助できる知識や技術を習得する。 ・自立に向けた家事の介護のうち、衣生活・食生活に関する技能を演習を通して習得し、高齢者および障害者への家庭生活支援能力を養う。 ・調理の手技や食品・調理器具・食器の安全で衛生的な取り扱い方について、調理実習を通じて理解し修得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服実習、調理実習より基本的技術を学び、支援を必要とする人への援助方法を修得する。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する地域性や特色、伝統について理解し、利用者の生活支援に繋がる知識と技術を修得する。 ・被服の機能、管理について理解し高齢者に適した衣類の知識を深める。 ・手縫い練習、ミシンを使ったエプロン製作を通して基礎的な裁縫の技術を習得する。 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●生活学Navi資料+成分表2026(株)実教出版 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●被服実習作品提出 30% ●調理実習グループワーク 10% ●授業への参加状況と意欲 5% ●小テスト 5% ●章末テスト 50% 	

生活支援技術VI 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	オリエンテーション ・被服生活の基本知識
2	繊維の種類と特徴 ・布地の性質
3	衣類の洗濯 ・衣類の取り扱い表示
4	衣類の漂白と染み抜き
5	高齢者への衣服対応(着脱、生理機能、運動機能に合わせた工夫)
6	衣類の保管 ・衣類、寝具の衛生管理と取り扱い
7	被服実習①(実習室と器具の使い方、裁縫の基礎知識、手縫い)
8	被服実習②(手縫い練習とミシンの使い方)
9	被服実習③(エプロン製作 採寸と裁断)
10	被服実習④(エプロン製作 ポケット作りと縫い付け)
11	被服実習⑤(エプロン製作 袖ぐりと裾縫い)
12	被服実習⑥(エプロン製作 エプロン肩ひも縫い付け)
13	被服実習⑦(エプロン完成 名前の刺繍)
14	被服実習⑧(名前の縫い付け エプロンのアイロンがけ)
15	調理準備(実習室の使い方、器具の扱い方、清掃)
16	調理実習①(嚥下障害対応食)
17	調理実習②(嚥下機能対応食)
18	調理実習③(展開食)
19	調理実習④(展開食)
20	調理実習⑤(和食の基本)
21	調理実習⑥(和食の基本)
22	調理実習⑦(高齢者に人気のメニュー)
23	調理実習⑧(高齢者に人気のメニュー)
24	調理実習⑨(お楽しみ食 世界の料理)
25	調理実習⑩(お楽しみ食 世界の料理)
26	行事食の計画(クリスマス会)
27	行事食の計画(クリスマス会)
28	調理実習⑪(行事食 クリスマス会)
29	調理実習⑫(行事食 クリスマス会)
30	調理まとめ(実習室の清掃、器具の片付け、生理整頓)

授 業 概 要			
生活支援技V	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	藤本 明子・介護福祉学科教員	有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、利用者の心身状況を適切に捉え、自立に向けた根拠に基づいた介助の技法について、利用者と介護者の視点から考え、効果的な介護技法を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] その人らしい主体的な生活の支援について考察する能力を身につけ、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・今まで学んだ知識を基に尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践が考えられる。</p>			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6、7、8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 課題レポート 100%	

生活支援技術Ⅴ		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考		
1	対象者に応じた介護(移動・移乗 1) 座位移乗、全介助		
2	対象者に応じた介護(移動・移乗 2) リフト・スライディングボード		
3	対象者に応じた介護(移動・移乗 3) 熱田神宮参拝事前レクチャー		
4	対象者に応じた介護(移動・移乗 4) 熱田神宮参拝プロジェクト		
5	対象者に応じた介護(移動・移乗 5) 熱田神宮参拝プロジェクト		
6	対象者に応じた介護(身じたく 1) ベッド上での更衣		
7	対象者に応じた介護(身じたく 2) 和式寝衣		
8	対象者に応じた介護(食事 1) 臥床での食事介助		
9	対象者に応じた介護(食事 2) グループワーク		
10	対象者に応じた介護(食事 3) 発表		
11	対象者に応じた介護(清潔保持 1) 洗髪		
12	対象者に応じた介護(清潔保持 2) 顔拭き		
13	対象者に応じた介護(排泄 1) 尿器・便器		
14	対象者に応じた介護(排泄 2) 尿器・便器		
15	対象者に応じた介護(排泄 3) 排泄シュミレーター		
16	対象者に応じた介護(排泄 4) 排泄シュミレーター		
17	対象者に応じた介護(睡眠 1) 安楽な体位		
18	対象者に応じた介護(睡眠 2) クッション		
19	対象者に応じた介護(終末期 1) 死の体験		
20	対象者に応じた介護(終末期 2) 看取り(在宅)		
21	対象者に応じた介護(終末期 3) エンゼルケア		
22	対象者に応じた介護(終末期 4) 看取り(施設)		
23	疾患に応じた介護	歩行誘導(視覚障害)	
24	疾患に応じた介護	車いす散策	事前調べ学習(GW)
25	疾患に応じた介護	車いす散策	事前調べ学習(GW)
26	疾患に応じた介護	車いす散策	外出
27	疾患に応じた介護	車いす散策	外出
28	疾患に応じた介護	車いす散策	発表
29	振り返り、まとめ	車いす散策	発表
30	振り返り、まとめ	車いす散策	発表

授 業 概 要			
生活支援技術VI	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2 (30)	2年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。地域と居住環境を学ぶことにより、地域で暮らし続けることの意義を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義を中心としながら、高齢者・障害者が暮らす居住環境を学ぶことから、安心できる居住環境を考える。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域との連携の中で、介護福祉が果たす役割と協働について理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	I. 居住環境の整備の意義と目的(第2章1節)		
2	I. 安心して快適な生活の場づくり(第2章2節)		
3	II. 福祉住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方(第4章1節・2節)		
4	II. 福祉住環境整備関連職への理解と連携、相談援助の実践的な進め方(第4章3節・4節)		
5	II. 福祉住環境整備の共通基本技術(第5章2節)		
6	II. 生活行為別福祉住環境整備の手法(第5章2節)		
7	II. 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識(第5章補節)		
8	II. 福祉用具の意味と適用(第6章1節)		
9	II. 生活行為別にみた福祉用具の活用(第6章2節)		
10	II. 高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備①A～C(第3章1節)		
11	II. 高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備②D～F(第3章1節)		
12	II. 高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備③G～I(第3章1節)		
13	II. 障害別にみた福祉住環境整備①A、B		
14	II. 障害別にみた福祉住環境整備①C、D、E		
15	まとめ I. 住まいの管理(第2章2節)		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト(株)社会保険研究所</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験 90% 演習参加状況、出欠席 10%</p>	

授 業 概 要			
介護過程 I (基礎)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	齊藤 隆司・介護福祉学科教員	有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチについての基礎を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できる。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験50% 提出課題30% 出欠席および平常点20%を総合して評価</p>	

介護過程 I (基礎) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	介護過程の意義と基礎的理解(介護過程とは/介護過程の意義・目的①)
2	介護過程の意義と基礎的理解(介護過程とは/介護過程の意義・目的②)
3	介護過程の意義と基礎的理解(生活支援における介護過程の必要性①)
4	介護過程の意義と基礎的理解(生活支援における介護過程の必要性②)
5	介護過程の意義と基礎的理解(介護過程とICF①)
6	介護過程の意義と基礎的理解(介護過程とICF②)
7	介護過程の意義と基礎的理解(アセスメント演習①)
8	介護過程の意義と基礎的理解(アセスメント演習②)
9	介護過程の意義と基礎的理解(情報収集①)
10	介護過程の意義と基礎的理解(情報収集②)
11	介護過程の意義と基礎的理解(情報の解釈・関連づけ・統合化①)
12	介護過程の意義と基礎的理解(情報の解釈・関連づけ・統合化②)
13	介護過程の意義と基礎的理解(情報の解釈・関連づけ・統合化③)
14	介護過程の意義と基礎的理解(生活課題の明確化①)
15	介護過程の意義と基礎的理解(生活課題の明確化②)
16	介護過程の意義と基礎的理解(介護計画の立案①)
17	介護過程の意義と基礎的理解(介護計画の立案②)
18	介護過程の意義と基礎的理解(介護計画の立案③)
19	介護過程の意義と基礎的理解(介護計画の立案④)
20	介護過程の意義と基礎的理解(介護計画の立案⑤)
21	介護過程の意義と基礎的理解(介護の実施①)
22	介護過程の意義と基礎的理解(介護の実施②)
23	介護過程の意義と基礎的理解(介護の実施③)
24	介護過程の意義と基礎的理解(介護の実施④)
25	介護過程の意義と基礎的理解(介護の実施⑤)
26	介護過程の意義と基礎的理解(評価①)
27	介護過程の意義と基礎的理解(評価②)
28	介護過程の意義と基礎的理解(評価③)
29	介護過程の意義と基礎的理解(評価④)
30	介護過程の意義と基礎的理解(評価⑤)

授 業 概 要			
介護過程Ⅱ (実践・応用)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	山中真智子・宮部浩二・森永夕美 介護福祉学科教員	有
授業の回数 45回	単位数(時間数) 6 (90)	配当学年・時期 2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチを基盤に、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程の実践的展開を学ぶ。 また、事例研究を通して根拠に基づく実践が展開できる内容とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。 根拠を示し、個別の事例を発表できる。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出欠席50% 提出物50%</p>	

介護過程Ⅱ(実践・応用)		授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考		
1	介護過程の意義と基礎的理解(振り返り)		
2	介護過程とチームアプローチ		
3	介護過程とチームアプローチ		
4	介護過程とチームアプローチ		
5	介護過程とチームアプローチ		
6	介護過程とチームアプローチ		
7	介護過程とチームアプローチ		
8	介護過程とチームアプローチ		
9	介護過程とチームアプローチ		
10	介護過程の展開①-1		
11	介護過程の展開①-2		
12	介護過程の展開①-3		
13	介護過程の展開①-4		
14	介護過程の展開①-5		
15	介護過程の展開①-6		
16	介護過程の展開①-7		
17	介護過程の実践的展開①-1		
18	介護過程の実践的展開①-2		
19	介護過程の実践的展開①-3		
20	介護過程の実践的展開①-4		
21	介護過程の実践的展開①-5		
22	介護過程の実践的展開①-6		
23	介護過程の実践的展開①-7		
24	介護過程の実践的展開①-8		
25	介護過程の実践的展開①-9		
26	介護過程の実践的展開②-1	36	介護過程の実践的展開③-4
27	介護過程の実践的展開②-2	37	介護過程の実践的展開③-5
28	介護過程の実践的展開②-3	38	介護過程の実践的展開(事例研究①)
29	介護過程の実践的展開②-4	39	介護過程の実践的展開(事例研究②)
30	介護過程の実践的展開②-5	40	介護過程の実践的展開(事例研究③)
31	介護過程の実践的展開②-6	41	介護過程の実践的展開(事例研究④)
32	介護過程の実践的展開②-7	42	介護過程の実践的展開(事例研究⑤)
33	介護過程の実践的展開③-1	43	介護過程の展開の理解(事例研究発表①)
34	介護過程の実践的展開③-2	44	介護過程の展開の理解(事例研究発表②)
35	介護過程の実践的展開③-3	45	介護過程の展開の理解(事例研究発表③)

授 業 概 要			
介護総合演習 I (介護実習 I-1. 2)	授業の種類		実務経験の有無
	講義・演習		有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	担当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実習全体の流れを理解し、実習に必要な知識と技術を身につける。通所施設で支援を受けながら地域で生活をしている高齢者の理解を深める。介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座10(株)中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] ・出欠席10% ・小テスト30% ・課題レポート60%</p>	

介護総合演習 I (介護実習 I -1. 2) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	知識と技術の統合(介護総合演習の位置づけと目的、介護実習の意義、目的)
2	介護実習の種類・実習前の学びと、実習後の学びのいかし方
3	介護実習前、介護実習中、介護実習後の学習の内容と方法
4	実習先の特徴、実習先での学び(介護保険施設・居宅系サービス)
5	実習先の特徴、実習先での学び(介護老人保健施設、介護老人福祉施設)
6	実習先の特徴、実習先での学び(地域密着型サービス)
7	実習先の特徴、実習先での学び(障害者支援施設)
8	介護実習 I -1のねらいと実習モデル・介護過程を展開する介護実習
9	実習 I -1ガイダンス
10	感染症予防・健康管理
11	リスクマネジメント・個人情報の取り扱いについて(守秘義務)
12	実習生としての基本的態度・行動の理解
13	実習場面における適切な行動の理解
14	記録に関する基礎的理解と記述の習得
15	実習におけるスーパービジョン
16	実習目標・実習生個人表作成(実習 I -1)
17	実習支援システムについて
18	実習関連書類について①
19	実習関連書類について②
20	実習帰校日指導(実習 I -1)①
21	実習帰校日指導(実習 I -1)②
22	実習帰校日指導(実習 I -1)③
23	実習 I -1の振り返り(実習レポート作成)
24	介護実習 I -1 実習報告書作成①
25	介護実習 I -2のねらいと実習モデル・介護過程を展開する介護実習
26	介護実習 I -2ガイダンス
27	実習目標・実習生個人表作成(実習 I -2)
28	実習関連書類について①
29	実習関連書類について②
30	実習帰校日指導(実習 I -2)①

授 業 概 要			
介護総合演習Ⅱ (介護実習Ⅰ-3.Ⅱ)	授業の種類		実務経験の有無
	講義・演習		有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4(60)	担当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実習全体の流れを理解し、実習に必要な知識と技術を身につける。通所施設で支援を受けながら地域で生活をしている高齢者の理解を深める。介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う。 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法が理解できる。</p>			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座10(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] ・出欠席20% ・実習報告40% ・課題レポート40%	

介護総合演習Ⅱ(介護実習Ⅰ-3.Ⅱ) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	実習帰校日指導(実習Ⅰ-2)②
2	実習帰校日指導(実習Ⅰ-2)③
3	実習Ⅰ-2の振り返り(実習レポート作成)
4	介護実習Ⅰ-2 実習報告書作成
5	介護実習Ⅰ-2 実習報告会
6	介護実習Ⅰ-3のねらいと実習モデル・介護過程を展開する介護実習
7	介護実習Ⅰ-3ガイダンス
8	実習目標・実習生個人表作成(実習Ⅰ-3)
9	実習関連書類について①
10	実習関連書類について②
11	実習帰校日指導(実習Ⅰ-3)①
12	実習帰校日指導(実習Ⅰ-3)②
13	実習帰校日指導(実習Ⅰ-3)③
14	実習Ⅰ-3の振り返り(実習レポート作成)
15	介護実習Ⅰ-3 実習報告書作成
16	介護実習Ⅰ-3 実習報告会
17	介護実習Ⅱのねらいと実習モデル・介護過程を展開する介護実習
18	介護実習Ⅱガイダンス
19	実習目標・実習生個人表作成(実習Ⅱ)
20	実習関連書類について①
21	実習関連書類について②
22	実習帰校日指導(実習Ⅱ)①
23	実習帰校日指導(実習Ⅱ)②
24	実習帰校日指導(実習Ⅱ)③
25	実習Ⅱの振り返り(実習レポート作成)
26	介護総合演習における知識と技術の統合化、介護観の形成
27	介護実践の科学的探究(介護観作成)
28	介護実践の科学的探究(介護観発表会①)
29	介護実践の科学的探究(介護観発表会②)
30	介護実践の科学的探究(介護観発表会③)

授 業 概 要			
実習基準 I (介護実習 I-1) (基礎①)	授業の種類		実務経験の有無
	実習		有
実習日数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
14日間	3 (91)	1年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。また、地域における様々な場や職種等の機能・役割を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義、演習、実技演習で学んだ知識や技術を用いて、地域や施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とのコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設(入所・通所施設)等を利用される方との触れ合いから、生活支援の意味を考える。 ・利用者、職員、仲間同士などそれぞれにきちんと挨拶をし、適切なコミュニケーションをとるように努める。 ・利用者、職員の一日の流れを知る。 ・与えられた課題に積極的に取り組み、利用者の要求・思い、また職員の役割や思いを知るように努める。 ・介護実習 I-3での「個別生活支援技術の実践」を意識して、1日をととした介護場面を見学、体験する。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護という仕事に向き合い、自分を見つめ直すことができる。 ・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を理解する。 ・職場での基本的な倫理やマナーを身につけ、利用者・家族と適切なコミュニケーションが図れる。 			
<p>実習先種別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設 ・通所リハビリテーション ・介護老人福祉施設 ・通所介護 ・特別養護老人ホーム ・障害者支援施設 ・認知症対応型共同生活介護 ・小規模多機能型居宅介護 ・看護介護小規模多機能 ・認知症対応型デイサービス <p>日程 1年次 8月～12月のうち14日間 合計91時間</p> <p>《備考》 感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座10(株)中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする</p>	

授 業 概 要			
実習基準 I (介護実習 I-2) (基礎②)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	介護福祉学科教員	有
実習日数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
16日間	3 (104)	1年通年	必修 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。また、地域における様々な場や職種等の機能・役割を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義、演習、実技演習で学んだ知識や技術を用いて、地域や施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とのコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型サービス等を利用される方との触れ合いから、生活支援の意味を考える。 ・利用者、職員、仲間同士などそれぞれにきちんと挨拶をし、適切なコミュニケーションをとるように努める。 ・利用者、職員の一日の流れを知る。 ・与えられた課題に積極的に取り組み、利用者の要求・思い、また職員の役割や思いを知るように努める。 ・介護実習 I-3での「個別生活支援技術の実践」を意識して、1日をととした介護場面を見学、体験する。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護という仕事に向き合い、自分を見つめ直すことができる。 ・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を理解する。 ・職場での基本的な倫理やマナーを身につけ、利用者・家族と適切なコミュニケーションが図れる。 ・認知症の理解を深めるとともに安心できる生活支援の意味を考えることができる。 			
<p>実習先種別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設 ・通所リハビリテーション ・介護老人福祉施設 ・通所介護 ・特別養護老人ホーム ・障害者支援施設 ・認知症対応型共同生活介護 ・小規模多機能型居宅介護 ・看護介護小規模多機能 ・認知症対応型デイサービス <p>日程 1年次 8月～12月のうち16日間 合計104時間</p> <p>《備考》 感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。</p>			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座10(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする	

授 業 概 要			
実習基準 I (介護実習 I-3) (基礎実践)	授業の種類		実務経験の有無
	実習		有
実習日数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
16日間	3 (104)	2年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 対象者の生活を理解し、個別性に応じた基礎的な生活支援技術(介護技術)を、自立支援・安全と安心・尊厳の保持に向けた配慮の視点から実践できることを目的とする。また、多職種連携に基づく情報収集の実際を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活場面において個別ケアを理解して、りょうしゃ・家族とのコミュニケーションの実践、個別生活支援技術(介護技術)の確認、実践、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解し、実践する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・基本的な個別生活支援技術(介護技術)全般が実践できる ・個別支援に必要な情報収集ができる。</p>			
<p>実習先種別 ・介護老人保健施設 ・介護老人福祉施設 ・特別養護老人ホーム</p> <p>日程 2年次 5月～10月のうち16日間 合計104時間</p> <p>《備考》 感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。</p>			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座10(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする	

授 業 概 要			
実習基準Ⅱ (介護実習Ⅱ) (専門実践)	授業の種類		実務経験の有無
	実習		有
実習日数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
24日間	5 (156)	2年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。介護実習Ⅰ(1～3)で学んだことを基礎に、「目の前のひとに寄り添ういちばんの存在」を意識して介護実習を総合的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個別ケアや本人の望む生活を実現するために、個々の生活リズムや個性を理解して、利用者のニーズに沿って対象者らび対する個別介護計画の作成、実施、実施後の評価計画の修正といった介護過程を多職種協働のもと展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身に付ける。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程が展開できる。 ・介護過程の展開を通して、チームケアを理解できる。 ・「目の前の人に寄り添ういちばんの存在」になる。</p>			
<p>実習先種別 ・介護老人保健施設 ・介護老人福祉施設 ・特別養護老人ホーム ・障害者支援施設</p> <p>日程 2年次 8月～12月のうち25日間 合計163時間</p> <p>《備考》 感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。</p>			
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座10(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする	

領域：こころとからだのしくみ（300時間）

領域の目的

1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

科目名	単位数（時間数）
こころとからだのしくみⅠ（一般基礎）	4（60）
こころとからだのしくみⅡ（形態別基礎①）	2（30）
こころとからだのしくみⅡ（形態別基礎②）	2（30）
発達と老化の理解	4（60）
認知症の理解Ⅰ（基礎）	2（30）
認知症の理解Ⅱ（専門）	2（30）
障害の理解Ⅰ（基礎・専門A）	2（30）
障害の理解Ⅱ（専門B）	2（30）

授 業 概 要			
こころとからだのしくみ I (一般基礎)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	草野 喜代子	有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころとからだのしくみの基礎を学ぶ。基礎的な知識をもとに、機能低下や、障害が生活に及ぼす影響について、生活を支える介護実践と、その関係性について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようになる。生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じ、機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようになる。 *解剖生理学を学び、介護実践に必要な知識を身につけることができる。</p> <p>[授業方法] 教科書、その他の資料で講義形式、グループワーク、演習などを用いながら進めていく。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉養成講座11(株)中央法規</p> <p>* 学生へのメッセージ: 分かりやすいように授業を進めていきますのでしっかり授業に参加してください。また分からない点があれば、積極的に確認してください。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験60% 課題レポート、小テスト20% 授業態度20%をもとに評価を行います。 * 授業時間外学習(予習・復習)の具体的内容 ・ 専門用語を理解できるように自己学習をすること ・ 教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでください。</p>	

こころとからだのしくみ I (一般基礎) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	こころとからだのしくみを理解する①健康とは何か・定義、健康観、なぜ病気になるか 演習
2	②人間活動の根源となる欲求、自己実現と尊重、グループワーク
3	③こころを生み出す脳のつながり基礎、細胞と機能のしくみ
4	④認知のしくみ・学習
5	⑤記憶・思考、感情・情動のしくみ
6	⑥意欲・動機づけのしくみ・適応のしくみ 演習
7	からだのしくみのを理解する ①身体各部の名称、骨格と骨格筋の名称・内臓の名称
8	②細胞と遺伝
9	③脳・神経
10	④感覚器
11	⑤呼吸器
12	⑥循環器
13	⑦消化器・泌尿器
14	⑧骨・筋肉、関節、筋肉
15	⑨神経系・生殖器・内分泌
16	⑩血液・体液・リンパ液
17	⑪生命を維持するしくみ
18	⑫介護福祉職に必要な薬の知識
19	⑬薬とその効果、介護現場での注意点 演習
20	高齢者の疾患について理解する。疾患の特徴、病気にかかりやすい理由、予防策
21	移動に関連したこころとからだのしくみ(姿勢、ボディメカニクス、廃用症候群、褥瘡など) 演習
22	身じたくに関連したこころとからだのしくみ(顔面の構造、口臭、義歯など) 演習
23	食事に関連したこころとからだのしくみ(栄養素、嚥下、誤嚥、窒息など) 演習
24	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ(皮膚、発汗、陰部の清潔保持など) 演習
25	排泄に関連したこころとからだのしくみ(排尿、排便、失禁、便秘、下痢など)
26	排泄に関連したこころとからだのしくみ(ストーマの種類、人工膀胱・人工肛門のしくみ) 演習
27	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(睡眠のしくみなど) 演習
28	人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみ(終末期のとらえ方、看取りの尊厳・価値観)
29	人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみ(終末期・臨終期・身体機能の変化) 演習
30	授業の振り返り・テスト対策

授 業 概 要			
こころとからだのしくみ Ⅱ (形態別基礎①)	授業の種類		授業担当者
	講義		野村 敬子
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	2 (30)	1年通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ・人間の「こころ」と「からだ」の基本的なしくみを理解し、一人ひとりの利用者に応じた適切な介護を実践するための基礎的知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 移動、身じたく、食事、入浴・清潔、排泄、睡眠、終末期のとらえ方など、介護実践に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころとからだのしくみの基礎を理解し、適切な介護実践をする上で必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみと機能を理解する。 ②こころとからだの機能低下や障害が、さまざまな生活場面に及ぼす影響について理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①(移動のしくみ)		
2	移動に関連したこころとからだのしくみ②(心身の機能低下が移動に及ぼす影響のしくみ)		
3	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①(心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響のしくみ)		
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②(変化の気づきと対応)		
5	食事に関連したこころとからだのしくみ①(嚥下のプロセス)		
6	食事に関連したこころとからだのしくみ②(変化の気づきと対応)		
7	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①(入浴・清潔に関連したこころのしくみ)		
8	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②(心身の低下機能が入浴・清潔に及ぼす影響)		
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ①(尿排出・便排出のしくみ)		
10	排泄に関連したこころとからだのしくみ②(心身の低下機能が排泄に及ぼす影響)		
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①(睡眠のしくみ)		
12	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②(不眠症と睡眠障害)		
13	人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみ①(死のとらえ方)		
14	人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみ②(死の受容プロセスと医療職との連携)		
15	こころとからだのしくみのまとめ		
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ 第2版(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験100%	

授 業 概 要			
こころとからだのしくみ Ⅱ (形態別基礎②)	授業の種類		授業担当者
	講義		藤本 明子
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	2 (30)	2年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 1年次で学んだ「人体の構造と機能」および「心理」の基礎知識を土台とし、より実践的な「生活支援の場面に応じた心身のしくみ」を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。また、知識をもとに、移動・入浴・食事・排泄などの生活を支える介護実践との関係や基礎知識を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 移動、身じたく、食事、入浴、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階の生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイント等を学ぶ。 基礎的な知識を踏まえ、多様な対象理解のために事例検討を通して、観察力、思考力を高めていく。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①		
2	移動に関連したこころとからだのしくみ②		
3	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①		
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②		
5	食事に関連したこころとからだのしくみ①		
6	食事に関連したこころとからだのしくみ②		
7	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①		
8	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②		
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ①		
10	排泄に関連したこころとからだのしくみ②		
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①		
12	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②		
13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①		
14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②		
15	まとめ・試験対策		
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ 第2版(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% レポート課題 20%	

授 業 概 要			
発達と老化の理解	授業の種類		授業担当者
	講義		森永 夕美
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	実務経験の有無
30回	4 (60)	2年通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の成長と発達の過程における様々な変化および老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得するための学習とする。また後半は、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病を知り、生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長と発達の観点から、人の一生について理解する。 2. ライフサイクル各期の特徴を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。 3. 発達の観点から老化を理解し、老化に伴う様々な変化や生活における影響などについて学ぶ。 4. 高齢者に多い疾病を理解し、健康維持・増進のための生活支援について学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長と発達に関する基本的な考え方を述べることができる。 2. ライフサイクル各期の特徴や発達課題を踏まえた上で、それぞれの段階で必要とされる生活支援について述べるができる。 3. 老化に伴う様々な変化や高齢者に多くみられる疾病が及ぼす生活への影響を踏まえた上で、老年期にある人へのヘルスプロモーションを示すことができる。 4. 生涯発達理論に基づき、老化や疾患の理解を通して、介護のあり方を考えられる。特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解し説明できる。 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
●最新・介護福祉士養成講座12(株)中央法規		定期試験 80% 課題の提出 20%	

発達と老化の理解 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	人間の成長と発達の基礎的知識
2	発達理論(ピアジェ・エリクソン・バルテス)
3	発達段階と発達課題(ピアジェ・エリクソン・ハヴィガースト)
4	各発達段階の概要
5	身体的機能の成長と発達
6	心理的機能の発達・言語発達
7	社会的機能の発達
8	社会的機能の発達
9	老年期の定義
10	老年期の発達課題
11	人格と尊厳・老いの価値
12	喪失体験
13	セクシュアリティ
14	老年期をめぐる今日的課題
15	人間の成長と発達のまとめ
16	老化にともなう身体的な変化と生活への影響
17	老化にともなう心理的な変化と生活への影響
18	老化にともなう社会的な変化と影響
19	高齢者の健康
20	高齢者に多い疾患①骨格系・筋系
21	高齢者に多い疾患②脳・神経系
22	高齢者に多い疾患③皮膚・感覚器系
23	高齢者に多い疾患④循環器系
24	高齢者に多い疾患⑤呼吸器系
25	高齢者に多い疾患⑥消化器系・腎・泌尿器系
26	高齢者に多い疾患⑦内分泌・代謝系
27	高齢者に多い疾患⑧歯・口腔疾患
28	高齢者に多い疾患⑨悪性新生物・感染症
29	高齢者に多い疾患⑩精神疾患・その他
30	まとめ

授 業 概 要			
認知症の理解 I (基礎)	授業の種類		授業担当者
	講義・演習		齊藤 隆司・野浪 実穂
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	2 (30)	1年通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ① 認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。 ② 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	認知症を取り巻く状況／認知症介護の理念(パーソン・セントアド・ケア)		
2	連携と協働(認知症サポーター養成講座)		
3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(認知症とは何か)		
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(脳のしくみ・認知症の人の心理)		
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(中核症状の理解①)		
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(中核症状の理解②)		
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(生活障害の理解)		
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(BPSDの理解①)		
9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(BPSDの理解②)		
10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(アルツハイマー型認知症)		
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(血管性認知症)		
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(レビー小体型認知症, 前頭側頭型認知症)		
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(治療可能な認知症・若年性認知症)		
14	連携と協働(認知症カフェ:学内実施)		
15	連携と協働(はいかい模擬訓練:はいかいおかえり支援事業)		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座12(株)中央法規 ●その他 資料適宜配布		[単位認定の方法及び基準] 定期試験100%	

授 業 概 要			
認知症の理解 II (専門)	授業の種類		授業担当者
	講義・演習		齊藤 隆司・野浪 実穂
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	2 (30)	2年通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や 家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制の在り方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①認知症の人の生活及び 家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理 念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。 ②認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。 ③認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの理念と視点)		
2	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/パーソン・センタード・ケア・アセスメントツール)		
3	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/認知症の人へのケア①)		
4	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/認知症の人へのケア②)		
5	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/認知症の人へのケア③)		
6	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/様々なアプローチ法①)		
7	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/様々なアプローチ法②)		
8	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/終末期医療と介護)		
9	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/環境づくり①)		
10	認知症に伴う生活への影響(認知症ケアの実際/環境づくり②)		
11	連携と協働(認知症カフェ企画)		
12	連携と協働(認知症カフェ運営)		
13	連携と協働(認知症ケアの啓発・推進)		
14	家族への支援(介護者支援/家族支援①)		
15	家族への支援(介護者支援/家族支援②)		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座12(株)中央法規 ●その他 資料適宜配布		[単位認定の方法及び基準] 学期末試験やレポートの評価、出席・授業態度にて認定 (学期末試験90%、レポート5%、出席・授業態度5%)	

授 業 概 要			
障害の理解 I (基礎・専門A)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	山中真智子	有
授業の回数 15回	単位数(時間数) 2 (30)	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。 障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	障害の基礎的理解(障害の概念)		
2	障害の基礎的理解(障害者福祉の基本理念)		
3	障害の基礎的理解(障害者福祉に関連する制度)		
4	障害の基礎的理解(障害者福祉制度と介護保険制度)		
5	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(肢体不自由)		
6	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(重症心身障害、知的障害)		
7	連携と協働(チームアプローチ)		
8	家族への支援(家族への支援とは)		
9	家族への支援(家族の介護力の評価と介護負担の軽減)		
10	連携と協働(地域のサポート体制①)		
11	連携と協働(地域のサポート体制②)		
12	連携と協働(地域のサポート体制③)		
13	連携と協働(障害当事者の生活理解①)		
14	連携と協働(障害当事者の生活理解②)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座13(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験80% 平常点(レポート課題、小テスト、出席率)20% ただし、定期試験配点のうち60%を満たさない場合は定期試験不合格とする	

授 業 概 要			
障害の理解 II (専門B)	授業の種類		授業担当者
	講義		草野喜代子
実務経験の有無			有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2 (30)	2年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な技術を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理学的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。 障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。</p> <p>「授業方法」 教科書、その他の資料で講義形式、グループワーク、演習などを用いながら進めていく。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解(障害のある人の心理)		
2	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(視覚障害)		
3	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(聴覚・言語障害、重複障害・原因)		
4	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(重複障害の種類、高次脳機能障害)		
5	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(難病)		
6	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(発達障害)		
7	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(内部障害①)		
8	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(内部障害②)		
9	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(内部障害③)		
10	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(内部障害④)		
11	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(内部障害⑤)		
12	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(内部障害⑥)		
13	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(精神障害①)		
14	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(精神障害②)		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座13(株)中央法規 * 学生へのメッセージ:分かりやすいように授業を進めていきますのでしっかり授業に参加してください。また分からない点があれば、積極的に確認してください。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験60% 課題レポート・小テスト20% 授業態度20%をもとに評価を行います。 *授業時間外学習(予習・復習)の具体的内容 ・専門用語(医学用語)を理解できるように自己学習をする。 ・教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読んでください。</p>	

領域：医療的ケア（90時間）

領域の目的

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

科目名	単位数（時間数）
医療的ケア(基礎)	2 (30)
医療的ケア(演習)	4 (60)

授 業 概 要			
医療的ケア (基礎)	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2 (30)	1年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 解剖・生理学の知識から、喀痰吸引が必要な疾患の理解や生理的状态の理解を深める授業内容を展開する。</p> <p>2. 喀痰吸引等制度と「医療的ケア」について理解し喀痰吸引が必要な状態を把握すると共に、安全な喀痰吸引ができるための知識を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引の技術習得に必要な基礎知識が身に付く。 ・感染予防と安全管理の基本を理解できる。 ・医療的ケアに対する適切な安全意識と責任感を身につける。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	医療的ケア実施の基礎①		
2	医療的ケア実施の基礎②		
3	医療的ケア実施の基礎③		
4	医療的ケア実施の基礎④		
5	喀痰吸引基礎的知識①		
6	喀痰吸引基礎的知識②		
7	喀痰吸引基礎的知識③		
8	喀痰吸引基礎的知識④		
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順①		
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順②		
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順③		
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順④		
13	医療的ケア実施の基礎⑤		
14	医療的ケア実施の基礎⑥		
15	まとめ 試験対策		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>●最新・介護福祉士養成講座15医療的ケア (株)中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>1. 定期試験 80点(テキスト及び講義内容から)</p> <p>2. 出席回数 5点(欠席なし 5点 3回までは1点ずつ減点、4回以上は0点、)</p> <p>3. 授業態度 15点(私語、グループワークへの取り組み方、聴講の様子、提出物、準備などへの積極的な関り等)</p>	

授 業 概 要

医療的ケア (演習)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	工藤静・城戸千景・鈴木麻綾 介護科教員	有
授業の回数 30回	単位数(時間数) 4 (60)	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

1. 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。
2. 喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の習得のための技術を身に付けることができる。救急蘇生法を習得する。

[授業全体の内容の概要]

1. 感染予防の基礎知識と介護職自身の健康管理・感染予防について理解し、経管栄養が必要な状態を把握することができ、かつ安全な介助ができるための知識を習得する。
2. 解剖・生理学の知識から、経管栄養が必要な疾患の理解や生理的状态の理解を深める授業内容を展開する。
3. 喀痰吸引、経管栄養の手順、留意点などの知識を理解し、演習を通して具体的な手技を習得する。
4. 実施時の観察の視点・異常時の対応を学ぶ。
5. 救急蘇生法(BLS)の知識と技術を演習により習得する。

[授業終了時の達成課題]

1. 経管栄養の技術習得に必要な知識が身に付く。
2. 喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の知識が身に付く。
3. 喀痰吸引等制度および医療的ケアの法的枠組みを理解する。
4. 感染予防および安全管理を踏まえた実施方法を学ぶ。
5. 実施時の観察ポイント・異常時の対応を学ぶ。
6. 救急蘇生法(BLS)の知識と技術を演習により習得する。

[使用テキスト・参考文献]

●最新・介護福祉士養成講座15医療的ケア (株)中央法規

[単位認定の方法及び基準]

1. 定期試験 80点(テキスト及び講義内容から)
2. 出席回数 5点(欠席なし 5点 3回までは1点ずつ減点、4回以上は0点、)
3. 授業態度 5点(1年生と同内容)
4. 演習への取り組み方 10点(準備や片付けへの協力、物品の扱い方、尊厳に配慮した態度)

医療的ケア(演習) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	経管栄養の基礎知識①
2	経管栄養の基礎知識②
3	経管栄養の基礎知識③
4	経管栄養の基礎知識④
5	障害児・者の経管栄養の実施手順①
6	障害児・者の経管栄養の実施手順②
7	障害児・者の経管栄養の実施手順③
8	障害児・者の経管栄養の実施手順④
9	喀痰吸引の手技の理解①
10	喀痰吸引の手技の理解②
11	喀痰吸引の手技の理解③(口腔内)
12	口腔内喀痰吸引の手順の実際
13	喀痰吸引演習評価(口腔内)
14	喀痰吸引の手技の理解④(鼻腔内)
15	鼻腔内喀痰吸引の手順の実際
16	喀痰吸引演習評価(鼻腔内)
17	気管カニューレ内部喀痰吸引の手順の実際
18	気管カニューレ内部喀痰吸引の手順の実際
19	喀痰吸引演習評価(気管カニューレ)
20	胃ろう経管栄養の手技の理解①
21	胃ろう経管栄養の手順の実際①
22	胃ろう経管栄養の手技の理解②
23	胃ろう経管栄養の手順の実際②
24	経管栄養演習評価(胃ろう)
25	経鼻経管栄養の手技の理解①
26	経鼻経管栄養の手順の実際 ①
27	経鼻経管栄養の手技の理解②
28	経鼻経管栄養の手順の実際 ②
29	経管栄養演習評価(経鼻経管栄養)
30	救急蘇生法演習